



# 校長室だより

令和5年度

1月29日

NO. 39

## 凍った気を溶かす、灼熱の「炭焼き窯」 秦梨の伝統を味わう

秦梨の冬の朝はとても寒く、家から学校に向かう道すがら、車の温度計は気づくと2度近く下がっていきます。朝、山間を縫う乙川は日が当たらずに、暗く静かに流れます。川霧のかかった秦梨の山間の景色や雪のしんと降る山里は、まるで水墨画を思わせる趣と美しさがあります。また学校林を背負うプールやビオトープはさらに寒く、日の出もさらに遅く、水面は夏の活気を閉じ込めるように氷の蓋がかぶっています。

その学校林の傍らに立つ「炭焼き窯」が1年に一度、熱を帯びるのは、秦梨小の一大イベントの「炭焼き」です。1月22日の「窯入れ」、1月29日の「窯出し」からなる「炭焼き」は、市内でもここ秦梨小でしか行われていません。それは一つに、秦梨には炭焼きができる木が豊富にあること、二つ目は炭焼きができる窯があること、そして三つ目は炭焼きができる人がいるからです。それはつまり、ここ秦梨小が、自然が豊かで、伝統が残り、支えてくれる人々がいるという証拠でもあります。そしてそれを、山の先生のもと、毎年、享受できる秦梨っ子はとても幸せで、子供たちは皆、炭焼きを楽しみにしています。

校内に掲示の、ふるさと学習を支えてくださった元山の先生の河澄正春さんの紹介の中で、「昔はふろを沸かしたり、かまどで料理をしたりするのに、木を使っていた。秦梨はがら紡が盛んで、冬に暖を取るのに、火が出ない炭が便利だった。山で切り倒した杉や檜の材木として活用できない部分を薪として町に売りに行った。また、高い所で切り倒した木を運び出すのが大変だから、そこで炭にすることで軽くして運んだ。(中略)炭作りだけでなく、下草刈りや枝打ちなどの山仕事を忘れず、秦梨の山を大切にしてほしいです。」と書いてあります。現在、SDGs（持続可能な開発目標：2030年までに達成すべき17の目標）が叫ばれ、様々な企業においても取り組まれています。昔の人が生活の中で、木を余すことなく有効に使い、そうすることで山を守り自然を守ってきた、この「炭焼き」を含む山の活動は、まさに持続可能な活動であり、SDGsであるといえます。そしてそれは現在でも、環境を守ったり、災害から守ったりすることにも、つながっています。

けれど、炭焼きは簡単なものではありません。今回も子供たちが木を窯に入れてレンガでふたをするまで、山仕事サポーターの先生に教えていただき、その後も窯に火を入れて風を送りながら温度を測り、火を調整しながら見守ってくださっていました。これだけの手間をかけても、全てがうまくいくわけではありません。子供たちも、煙たさや火の熱さ、炭の黒さなど、自分たちでその大変さを感じています。それでも出来上がった「炭」は毎回、美しく、懐かしく、それでいて新しく感じられます。この炭焼きの意味や大変さを味わえることに感謝するとともに、この秦梨の伝統の「炭焼き」を、今後も守っていきたいと感じました。

